



SHINKAI NEWS

日署

あけほの

発行責任者

福岡県議会議員

新開 昌彦

福岡市早良区曙2丁目1-35

e mail:

shinkai_masahiko@hotmail.com

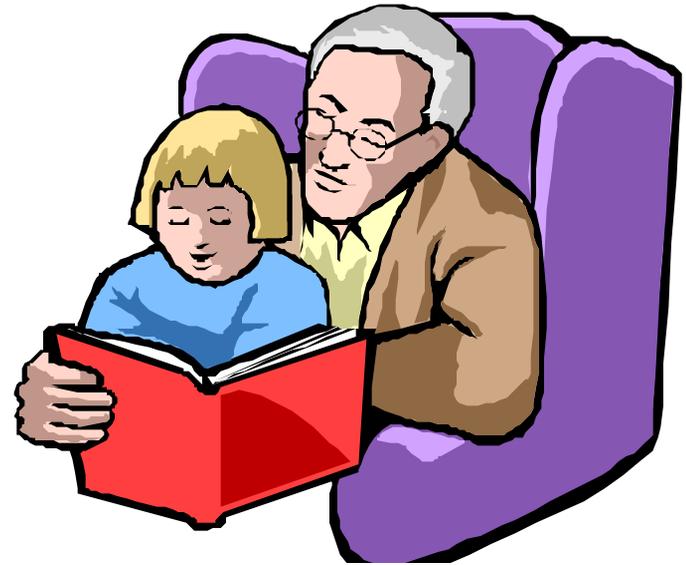
Vol. 12 平成14年1月2日発行

国会で「読書法」が成立

昨年12月5日待望の読書法が可決成立しました。

法律の名前は「子どもの読書活動の推進に関する法律」といいます。

この法は、基本理念で「全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動ができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」とし、国の責務、地方公共団体の責務、事業者の努力、保護者の役割、関係機関等との連携強化などを条文化されています。



子どもは未来からの預かりもの【ケニアの諺】

新開県議は、昨年12月14日一般質問で、読書法が成立したことを踏まえ、県がアンビシャス運動の一環として14年度に取り組む「乳幼児育児支援事業」について質問しました。

この事業は、公明党・新風の提案で、物語や遊び方などを盛り込んだ冊子を作り政令市を含む全市町村に1歳半、3歳、就学前の健診時に各5万冊で15万冊を配布し活用するもの。

新開県議は、「読み聞かせの指導助言」は新たな事業。北九州市、久留米市など県内には健診を病院で受ける地域がある。県は、病院で読み聞かせの実演や重要性が保護者に指導できるよう医師会などに理解を求めると提案しました。

麻生知事は、医師から保護者に読み聞かせの重要性を説明していただくよう協力依頼をします。と答弁しました。



今年^{うまどし}は「午年」

当選させていただいて2年9ヶ月です。

まだ駿馬には、ほど遠いですが、皆さんからの声が確実に私の議会活動につながり、私を育てていただいていると感謝しています。

今年も現場に駆けつけ、皆さんと一緒に問題に取り組んでいこうと決意しています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

新開昌彦県議の活動が公明新聞に大きく掲載されました。
記事内容は、以下の通りです。【2001年12月8日掲載】

鉛弾による環境汚染にストップ！

散弾銃の鉛弾による土壌の汚染が心配されていた福岡県筑紫野市の同県立総合射撃場で、汚染土壌と、場内に散乱していた鉛、クロス(散弾が入っているプラスチックケース)、クレー(円盤状的)がすべて回収され、11月までに土壌の鉛含有量が基準値以下となったことが確認された。土壌汚染問題を指摘し改善を迫っていた公明党の新開昌彦県議と、浜崎達也県議が11月29日、現地を視察した。

たい積鉛200トンを除去 基準値以下の土壌を回復



県立総合射撃場を視察する新開県議【写真左】と浜崎県議

県教育庁スポーツ健康課などによると、除去した汚染土は約8000立方メートル。直接除去した鉛(約44.5トン)と汚染土から取り出した鉛は、合わせて約200トンにも上った。この結果、場内305地点で採取した表面の土壌は、11月までにすべての地点で鉛溶出量が1リットル当たり0.005ミリグラム以下と環境基準を達成した。また約442トンのクレー材とクロス材約32トンも除去。さらに除去した鉛や土壌、クレー材、クロス材ともすべてリサイクルした。

総合射撃場は1990年のオープン以来、クレー射撃やエアライフル射撃など年間約1万人のスポーツ射撃愛好者らに利用されてきたが、散弾銃を使用するクレー射撃の鉛弾やコ

ロス、弾が当たり、砕け散ったクレーは回収されず、11年間、場内にたい積したまま。周辺住民が、鉛が地中に溶け出し土壌を汚染することを懸念していたほか、場内にある農業用水につながるため池の水の汚染も心配していた。

新開議員は住民からの相談を受け、県に対応を迫っていたが、こうした折の00年9月、同射撃場の水質検査で環境基準値を上回る鉛が検出されていたにもかかわらず、県が結果を「改ざん」していたことがマスコミ報道で発覚。同じく、県水産林務部の土壌検査で自然界の約800倍もの鉛を検出していたことも判明した。驚くべき新事実新開議員は直ちに行動を開始。射撃場の汚染土壌を自ら採取し、九州大学の協力を得て分析した。自然界の3800倍もの鉛が埋まっていることが分かり、この事実を基に同年10月、本会議で県と県教育委員会に鉛弾や汚染土壌の回収、射撃場の改良などを求めている。

この質問をきっかけに、同射撃場は11月から一時休業し閉鎖。今年3月から汚染土壌などの撤去が始まった。また、来年3月の再開を目指し、場内の改修も開始。ため池の前に高さ10メートルの防御壁を設けるほか、周辺の斜面地にも高さ3～5メートルの防御壁を設置。弾を回収しやすいように場内はアスファルト、モルタルで舗装、水路をめぐらし溜桝を配備して鉛が集まるようにする。ため池のしゅんせつも随時行う。

視察を終えた新開、浜崎両議員は、「土壌の見違えるような姿にホッとしている。全国にある射撃場の模範となり、環境行政の象徴ともなる施設になるよう、今後も見守りたい」と感慨深げに語っていた。

昨年12月14日新開県議は一般質問で、地域住民の環境を守る観点から今後の射撃場について質問しました。教育長は、定期的に水質検査を行う。土壌検査は、施設改修後も舗装の下の部分の土壌検査ができるよう検討しています。使用料は、射撃場の環境を保全するため受益者に応分の負担をお願いする。射撃場運営委員会を発足し健全な施設として運営していくと答弁しました。